

WUB Tokyo NEWS

No. 6 2006.7.1

発行/WUB東京 広報委員会

発行責任者/長嶺 為泰

WUB東京 事務局

〒105-0004 東京都港区新橋1-13-12 堤ビル3F

「沖縄ツーリスト東京支店 大城友宏」 気付

TEL・FAX 020-4623-5326

URL <http://wubtokyo.com>

E-mail info@wubtokyo.com



INDEX —ペルー大会報告—

第10回 WUB世界大会・ペルー開催 並びに
沖縄県人ペルー移住100周年記念式典に参加して
—WUB東京会長 長嶺 為泰
「第10回 WUB世界大会ペルー2006」参加報告—小畑 耕行
会員・会社紹介「株式会社eFarm.jp」—斎藤 陽子
連載「沖縄マインド」について
—琉球新報社編集局政経部長 名城 知二郎
WUB東京フラッシュバック(05年6月~06年5月)
WUB東京在沖会員からの近況報告
・銀座に新名所「美ら海水族館」誕生!?!—屋良 朝男
情報発信掲示板—新入会員紹介/お知らせ/編集後記

第10回 WUB世界大会・ペルー開催 並びに 沖縄県人ペルー移住100周年記念式典に参加して

WUB東京会長 長嶺 為泰

去る1月27日から29日にペルー移住100周年記念行事、30・31日にWUB世界大会参加と、地球の反対側ペルー国において目まぐるしくも実り多い一週間を過ごした。県民100年の移住史には我々日本人・ウチナーンチュの、言葉では語りつくせない苦難の数々を乗り越え、現地社会において努力と勤勉さで揺ぎない信用と評価を勝ち得た先輩諸氏を誇りに思う。現在ペルーでは日系人の7割が沖縄系との事で、殆どの活動が一世から二世、三世へ引き継がれ、ウチナーグチやウチナー魂チムグクルも継承されながら、様々な分野において活躍されている。



初期の移民は一日も早く故郷に錦を飾って帰ろうとの思いでひたすら仕事に励み、現地社会との交流がおろそかになった様で、残念ながら第二次世界大戦の折には、大多数の日本人が敵対国の人間として、努力して築いた財産は没収、或いは二束三文で強制売却させられ、又は、強制収容・国外追放を受けた為に、戦争を境に公での日本語使用を抑制させられた結果、二世、三世の方々はスペイン語の世界で育ち、ウチナーグチは家庭内にて何とか語り継がれた様だが、近隣諸国の日系人に比べて日本語を話せない方が多い様である。1980年代後半からペルー国の政治・経済の不安定と並行して日本の経済発展、労働者不足に伴い、多数の日系人が出稼ぎとして日本へ出た結果、瞬く間に日本語がブームとなり、同時に日本文化、故郷沖縄の文化等への関心が盛り上がり、国全体の日本への期待と興味が増加しつつある様に見えた。この様な時期に第10回WUB世界大会をペルー、リマ市にて開催された事は大変大きな意義があった。沖縄県知事を始め、国・県議員や市町村長の方々が多数参加され、又、世界各国からの参加者と交流しながら、新しい絆、友情、ビジネスチャンスに接し、今まで日系・沖縄社会に関心を示さなかった沖縄系事業家の多くがルーツに誇りを持ち、今後は積極的に参加交流し、より広くビジネスチャンスを伸ばして行きたいとの思いを多々聞く事ができ、嬉しい出会いとなった。WUB活動も10年目を迎え、今迄の基礎作りから、第二ステップのビジネス構築に向かって世界のウチナーン

チュが手を携えて行ければ、自ずととして故郷沖縄の発展にも大いに寄与できるかと益々夢膨らむ思いを感じたのは私一人ではないであろう。先ずはともあれ、各WUB支部がしっかりした基礎を作り、各支部間の情報交換を密に会員同士の信頼関係を構築すれば、ビジネスチャンスも生まれる事と信ずる。



第10回WUB世界大会プログラム

- <初日: 第10回WUB世界大会> 2006年1月30日**
 会場「リマスイス ホテル」
 07:00 理事会
 09:15 【第1部 開会式】
 開会宣言 大会実行委員長 高原ルイス
 来賓、WUBインターナショナル顧問・会長・各支部会長紹介
 歓迎の辞 WUBペルー支部会長 赤嶺光弘
 主催者挨拶 WUBインターナショナル会長 与那嶺真次
 祝辞 沖縄県知事 稲嶺恵一
 祝辞 在ペルー日本国特命全権大使 石田仁宏
 祝辞 ペルー共和国通商観光省大臣 アルフレッド・フェレロ・ディエスカンセコ
 11:00 【第2部 基調講演】
 テーマ「ペルーの法的基準と外国貿易」
 ペルー共和国通商観光省副大臣 パブロ・デラフロル・ペラウンデ
 テーマ「ペルー-沖縄県出身移民100周年の歴史と実態」
 琉球大学名誉教授 石川佑紀
 12:30 昼食
 13:30 【第3部 記念講演】
 テーマ「WUBを立ち上げた経緯」
 WUB創設者 仲宗根ロバート
 テーマ「ペルーの経済と外国貿易」
 ペルー共和国輸出振興会代表 リカルド・デウエニャス・マルドナド
 15:30 【第4部 ビジネス交流会】
 各国支部の特産品展示・紹介
 各テーブル毎にビジネス交流
 WUB法曹会議
 16:00 カンファレンス「沖縄移民」
 沖縄の学者
 19:00 【第5部 WUB交流パーティ】
- <2日目: 県系・WUB会員企業訪問~市内観光> 2006年1月31日**
 08:00 企業訪問
 Aコース 宮里ガラス工場~喜屋武・ロッキータ焼き鳥チェーン店
 Bコース 徳村加工食品工場~玉城アイスクリーム工場
 12:00 昼食(全員集合) 海岸線のレストラン「コスタヴェルデ」
 13:30 市内観光
 Aコース 天野博物館~旧市内観光
 Bコース 黄金博物館~パチャ・カマック遺跡観光
 17:00 解散



「第10回 WUB 世界大会ペルー-2006」 参加報告 WUB東京 小畑 耕行



1/25(水) 18時55分、WUB関西の仲里会長と二人で関空発のAA(アメリカンエアライン)便でペルーに向かう。南米への旅は今回が3度目だが、大阪から出発するのは初めてで、過去は2回とも成田発で出かけている。ダラス～マイアミ経由で24時間ほどフライトし、現地時間1/26(木)の早朝5時過ぎにリマ空港に着く。

一足先に現地入りしていた長嶺会長のグループと合流し、そのままクスコに飛び、8時半過ぎにクスコ空港に降り立つ。迎えのバスに乗り込んでホテルを目指す。メンバーの大半が標高3,350mの高地で体調の異変を感じ始める。

少し休憩してからクスコ観光に出かけ、更に高々度の遺跡「水の神殿跡(3,760m)」や「赤い要塞・プカプカラ(3,750m)」、毎年6/22～23に太陽の光が祭壇に差し込むという「Q'ENCO(クエンコ)」遺跡、毎年6/24にインティライミという太陽祭が行なわれるサクサイワマン遺跡の大広場等を見学する。体調が悪くなる人が増え、見学地に着いてもバスを降りない人が多くなって来る。



翌27日(金)、早朝からマチュピチュ観光に出かける。6時に中央市場近くのサンベドロ駅(3,350m)を出発、駅周辺の貧民層の

スラム街を左手に見ながら、列車は2回のスイッチバックで3,600mまで上り、後は下りで1回のスイッチバックを挟んで濁流のウルバンバ川の右岸をすれすれに走りながら、3時間40分かかってアグアス・カリエンテス駅(2,000m)に到着する。バスに乗り換え曲がりくねった坂道をうねうねと上り徒歩観光出発地点に着く。

1911年に米国の歴史学者ハイラム・ビンガムによって発見されたマチュピチュは、絶壁状に尖った山々がそびえるウルバンバ溪谷の山間、標高2,280mの山の頂上に位置し、世界遺産にも指定されている失われた空中都市で、その景観には天空との接点を感じさせるものがある。マチュピチュ(古い峰)の背後にはワイナピチュ(若い峰)がそびえ立っている。スペイン人ピサロに騙され財宝を奪われたあげく火あぶりの刑に処せられて無念の思いで死んでいったインカ皇帝アワルパとインカの民の嘆きが密封されたような隔離空間である。クスコより1,000mも標高が下がっているのに、グループのメンバーは坂道の上下のきつい観光の割に比較的元気に見える。

翌日の28日(土)はクスコからリマへの移動。29日(日)はリマ市内のペルー沖縄県人会館で行なわれた沖縄県人ペルー移住百周年記念式典に参加。式典には稲嶺沖縄県知事も出席され、植樹式に引き続いて県人会館創設に貢献のあった西銘順治元沖縄県知事と徳村政繁元ペルー沖縄県人会長を称える胸



像除幕式が執り行われる。その後、運動場に移動して入場パレードを皮切りに一大式典が繰り広げられる。

1/30(月)、リマ・スイスホテルで行なわれた「第10回WUB世界大会」に参加。【第1部 開会式】は、稲嶺恵一沖縄県知事、石田仁宏在ペルー日本国特命全権大使、ペルー共和国通商観光省大臣からご祝辞をいただき肅々と執り行われた。【第2部 基調講演】では、ペルー共和国通商観光省副大臣から、ペルーの貿易が過去5年間5%の高成長率を維持している点、貿易が牽引力となってペルー経済が復活してきた点、輸出の大きな柱は復活してきた農業による農産物でペルーの気候は1年を通して農産物を供給できる特徴を持っており、アスパラガスやパプリカを常時供給可能で、しかもアンデス共同体に加入しているので米国への輸出が無税であるといった点などの説明があった。

また、石川佑紀琉球大学名誉教授から、「ペルー沖縄県出身移民百周年の歴史と実態」と題して、日本からのペルー移民は1899年に始まり、沖縄からは1906年に初の移民が農業契約移民としてペルーに渡り、その後呼び寄せ移民等もあって移住者数は大きく増え、今ではリマ人口800万人のうち、日系人が8万人(1%)で、そのうちの70%が沖縄系である点などの説明が行なわれ、興味深い内容であった。因みに、ペルー全体の民族構成は、メスティーソ(混血)52%、インディヘナ(先住民)32%、ヨーロッパ系12%、残り4%がアフリカ・アジア・その他系で、このうち日系人が8万人という構成である。ボリビアでは、インディヘナ55%、メスティーソ32%で、合計すると両国とも先住民・混血系の人口構成は85%前後で、アルゼンチンのヨーロッパ系97%、メスティーソ・インディヘナ・その他3%という構成とは大きく異なる。

【第3部 記念講演】では、ロバート仲宗根WUB創設者から「WUBを立ち上げた経緯」の説明があり、【第4部 ビジネス交流会】では、各プレゼンテーションの後に、スペイン語、英語、日本語による順次通訳が行なわれ、ビジネス交流会に相応しい雰囲気であった。昼の部に引き続き、19時から【第5部 WUB交流パーティー】が行なわれ、最後は恒例のカチャーシーで盛大に締めくくられた。

翌31日(火)は大会2日目、企業訪問Bコースに参加し、徳村加工食品工場～玉城アイスクリーム工場の見学を行なう。徳村加工食品の徳村社長は、前日ペルー沖縄県人会館で行なわれた胸像除幕式で栄誉を称された徳村政繁元ペルー沖縄県人会長の弟さんである。昼食は、Aコース・Bコースともに海岸線のレストラン「コスタヴェルデ」に集合し参加者全員で会食。



レストランから望む景色はエルニーニョ現象が発生する場所として有名な海。午後からは市内観光Aコースに参加して天野博物館～旧市内観光を行なう。旧市内からリマック川を超え貧民街の隘路を上ってサンクリストバルの丘に出る。400mの高度があるので見晴らしは良いのだが、リマッ

ク川を挟んで明らかに景観が異なっているのが分かる。川の向こうに見える高層ビルのある近代的な新市街地と、手前側の貧民層の住むスラム地域の旧市街地とでは生活格差に雲泥の差があるのが見て取れる。日本大使館公邸占拠は記憶に新しい事件だが、こうした生活格差が二極化を加速し政情不安を引き起こす背景になっていることは容易に推察できる。複雑な思いを抱きながらスラム街を下ってホテルに戻った。

2/1(水)0時15分(実際は1/31の深夜)、リマ発ダラス行きのAA便で帰国。途中、ダラスのみの乗り継ぎ予定なので、空港で6時間の待ちがあるとは言え楽勝で帰れると思いきや、ダ

ラスで航空機トラブルに遭遇し、機内で2時間半も待たされたあげく降ろされて、ロビーで更に3時間半も待たされ6時間遅れでの出発となり、結果的にダラス空港に12時間も釘付けの最悪の状況となる。関空への到着が6時間も遅れ、着いたのは23時半過ぎでリムジンもなく、辛うじて間に合ったJRに飛び乗るが、これがまた、阪和線の信号トラブルで杉本町での待機となり、結局、大阪駅に着いたのは午前1時半で最悪の締めくくりとなった。

最後はとんだハプニングに遭遇してしまったが、「第10回 WUB世界大会ペルー2006」への参加は、いつもながらの楽しい旅であった。

会員・会社紹介 『株式会社eFarm.jp』

WUB東京 斎藤 陽子

東京WUB会員でありながらアメリカに住み、主人の経営する化学原料会社 US Ceramic Supply, Inc. の副社長として、大半はアメリカで過ごしておりますが、昨年ごろから日本で過ごす時間が長くなり、ライフスタイルが少々変わってきております。時間的には幾らか長い日本滞在中には、WUB東京の諸行事に参加することもでき、これでやっと名実ともにWUB東京会員になったような気がしてきています。

それと言うのも、今年は日本に、『株式会社eFarm.jp』という、インターネットにて果物を中心にした農産物販売を行なう、会社を立ち上げたためです。産地直送の農産物の売買を業務とする会社の代表取締役となり、ますます今後は、日本で過ごす時間が多くなることと思っております。

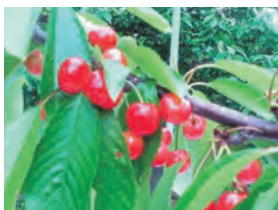
扱う商品は季節の果実を中心に、年間を通じて産地直送販売を予定しており、7月から始まる、サクランボ、桃、ブドウ、梨、リンゴ、みかん、レモンなどの新鮮な果実の他、ジャムや果汁100%ジュースなどの加工品なども取り扱います。果実以外では、普賢岳のふもとの棚田で、自然農法で育て天日干しされた米もあり、有機栽培を主として栽培された、これらのこだわりの商品を消費者の皆さんにお届けして行きたいと思っております。

米国には既に化学原料供給会社という、まことに硬い企業を持ちながら、何故このたび日本に、米国の会社と何の関連も無い、インターネットによる農産物の産地直送事業『株式会社eFarm.jp』という、会社を立ち上げることになった理由は、30年前にさかのぼります。30年前から

の10年間、私はカリフォルニア州立大学農学部に勤めておりましたが、この大学に日本の農林水産省と外務省の外郭団体「派米農業研修制度」が送り込むプログラムがあり、日本各地の果樹農園の後継者が、30人ほどの青年が毎年研修に来ておりました。彼らは2年間、アメリカの農業研修を行なうのですが、このプログラムの学科コーディネーター及びハウジングの面倒などを、私が10年間担当していたのが縁で、日本各地に果物生産者の教え子が居るという訳です。この青年たちが、現在、果樹農園を継ぎ、果実生産をしておりますが、いまコンピュータの時代となり、くわえて運送流通面も発達した今こそ、イーコマースという事業、つまりインターネットを介在した販売事業をしようとの、卒業生200人からの声を受け、代表取締役となり会社を創りました。

今でこそ日本でも自然農法が叫ばれるようになりましたが、30年前の当時のアメリカでは、有機栽培の大切さを認識した幕開けの時代でもありました。彼らは日本に帰国し、それぞれが自分の農場で、アメリカで学んだ有機栽培を実施するため、渡米研修生が相互で研究しあい、日々新しい農業栽培に努力しています。そういう生産者の生産物を、収穫から時間をなるべくかけずに、新鮮なうちに、皆さんの食卓にお届けしたいと考えております。

『株式会社eFarm.jp』ホームページ“<http://www.efarm.jp>”を今後ともよろしく願ひ致します。



沖繩に逢える!! 沖繩が味わえる!!

株式会社 おきなわ物産センター
 営業時間 AM 10:00~PM 8:00 年中無休
 〒230-0042 横浜市鶴見区仲通り3-74-14
 鶴見沖繩県人会1階
 TEL 045-504-7816 フェアール0120-097817 オキナワイーナ
<http://www.okinawa-bussan.com>
 E-mail: info@okinawa-bussan.com
 沖縄食村全般・健康補助食品(もろみ酢・うこん・シークワサーなど)
 ポーク缶詰・その他950種類以上の品揃えてお待ちしております。

那覇営業所 〒900-0003 那覇市安謝2-3-2
 TEL 098-941-0808 FAX 098-941-0820

沖繩を感じて、沖繩に酔いしれて!
 ヘルシー居酒屋 **おきなわ亭** ライブあり♪
 TEL 045-321-0169
 横浜駅西口徒歩5分(神奈川区鶴屋町2-19 山本ビル3F)

熟成手打ち風 沖繩そば工場
 ヘルシー沖繩料理の店 **おきなわ亭**
 045-506-4774

産直市場 eFarm.jp
 order fresh, eat, healthy!

こだわりの農産物を 全国に産直でお届け!

産地直送フルーツ等のお届け時期年間スケジュール

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
みかん(伊予柑)					桃(白桃・白鳳)			極早生温州みかん(回南)			三ヶ日温州みかん(オキワセ)
	デコボソ				ブドウ(巨峰・甲斐路・甲州・ピオーネ)						
	清見みかん					ナシ(幸水・豊水・新高)					
	ニューサマーオレンジ						リンゴ(津軽)	桃(白桃・白鳳)			
				サクランボ(佐藤錦)			リンゴ(津軽・陽光・信濃スイート・ふじ)				
				スモモ(大石早生・ソルダム・太陽)				棚田自然栽培米			
	レモン										レモン

ジャム(サクランボ・桃・スモモ・ブドウ・キウイ・ブルーベリー)・ジュース(リンゴ・ブルーベリー)

eFarm.jpが生産者から食卓へ直接お届けします
<http://www.efarm.jp>

連載「沖縄マインド」について

琉球新報社編集局政経部長 名城 知二郎



琉球新報連載の「沖縄マインド」は、素晴らしい在京沖縄出身経営者の方々の波瀾多き人生と夢、変わらぬ「チムグクル」が紙面より伝わるもので、多くの読者に元気と感動を与えて参りました。今回「えーく」に名城氏の連載に至る感動秘話を掲載いただくことができました。

ふるさと沖縄を離れ、苦勞して事業を興した人々を紹介できないものかと考え、東京支社報道部長を務めていた2002年1月、琉球新報夕刊で「東京発沖縄マインド」の連載記事をスタートさせました。取材を進めてみると、これが実に興味深い。それぞれに波瀾万丈(はらんばんじょう)のドラマがあります。夢中で話を聞いているうちに約束の時間をオーバーしてしまったことも一度や二度ではありませんでした。私が東京支社の報道部長に赴任したのは2001年9月1日のことです。前任者の潮平芳和氏(現在は編集局整理部付部長)が病気で療養したことに伴い、急きょ異動が決まりました。着任早々、本土での県出身者の活躍ぶりを目の当たりにし、何らかの形で紙上で紹介する必要があると痛感しました。当時の島袋龍三支社長から「君もせっかく報道部長に送り込まれたのだから、何か新しい新年企画を考えているんだろうな」と問われて、「もちろんです」と即答。「沖縄マインド」の構想を話すと、「自分も人選面で後押しする」と喜んでいました。タイトルをどうするか知恵を絞っていると、心を意味する「マインド」という言葉がひらめき、東京から沖縄の心を発信する—という思いを込めて「東京発沖縄マインド」と命名することにしました。その後、当時の宮里昭也社長の指示で取材範囲が全国に拡大されたため、「東京発」に加え、「大阪発」「福岡発」「愛知発」という具合に、発信地が広がりました。連載記事は①本文=50行(1行11文字)②ふるさとへの一言=10行(同)③略歴=10行(同)一で構成されています。短い文章の中に、その人の歩んできた道りを凝縮させるのはかなり骨の折れる仕事でしたが、同時に楽しい作業でもありました。自分自身の生き方を考える上でも、とても勉強になったと思います。連載は週1回。2002年1月4日付の夕刊からスタートしました。第1回は伊是名村出身の会繩軌道社長・小泉ケイ子さんです。小泉さんは十九歳の時に集団就職で上京。カラーテレビ

の部品を作る工場で5年ほど働きました。結婚して7年間、事務の仕事に就きます。間もなく、昼は和裁、夜は国鉄線路補修工事のアルバイトという二重生活を始めました。「何しろ賃金が高かった。仕事は午後11時から午前4時ぐらまでで実働は3、4時間。それでも一晩で1万2千円ももらった。女性の作業員も結構いた」と小泉さんは言います。数年間の線路補修の経験を生かし、1991年11月、兄とともに、神奈川県平塚市に株式会社会繩(あいな)軌道を設立。社長に就任しました。夫の出身地が会津(福島県)なので、この社名にしたと



小泉ケイ子さん

のことです。東海道新幹線の新横浜—三島の区間で線路のレール、まくら木を交換するなど、保守点検に当たっています。鉄道のない沖縄から、鉄道補修の会社を興す人が現れたこと自体、驚きです。しかもその社長は女性でした。

沖縄の人々にとって励みになる存在だと考え、無理を押ししてお願いし、登場していただきました。2回目は東京沖縄県人会副会長の大城朝夫さん、3回目がアパレル・インターナショナル社長の知花弘和さん、4回目は茨城沖縄県人会長の金城罔弘さん、5回目は元ボクシング世界チャンピオンの浜田産業社長・浜田剛史さん、6回目は昭和生化学社社長の三島康裕さんです。WUB東京の会長だった重田辰弥さん(現在・関東沖縄経営者協会会長)から次々と候補者を紹介してもらったおかげで、連載が途切れることは一度もありませんでした。WUB関係者としては重田さん、小泉さん、三島さん、知花さんをはじめ、古都首里の高倉玲子さん、ニューズヴァリュー社長の伊禮博さん、おきなわ物産センター社長の下里英俊さん、東北エンタープライズ社

「体動かす仕事が一番」

会繩軌道社長 小泉ケイ子さん

東京発 沖縄マインド

新幹線を裏方で支える

「体動かす仕事が一番」

小泉ケイ子さんは、19歳で上京し、カラーテレビの部品を作る工場に就職。その後、和裁と国鉄線路補修のアルバイトをしながら、1991年に夫と共同で神奈川県平塚市に株式会社会繩(あいな)軌道を設立。現在は同社社長を務める。夫の出身地が会津(福島県)なので、この社名にしたと話す。

大阪発 沖縄マインド

差別待遇に奮起、工場設立

日吉 松仁さん

ステンレス製品を加工

日吉松仁さんは、1943年に大阪府で生まれ、1963年に東京府に上京。その後、ステンレス製品の加工業に従事。現在は、大阪府で工場を設立し、同社の社長を務める。

兵庫発 沖縄マインド

はだか一貫で100億円企業に

比屋根 毅さん

洋菓子で事業拡大

比屋根毅さんは、1957年9月に兵庫県で生まれ、1977年に上京。その後、洋菓子店を経営。現在は、100億円規模の企業に成長させた。

東京発 沖縄マインド

買い付けで全国に人脉築く

奥本 尚哉さん

年間30台の中古重機輸出

奥本尚哉さんは、1969年9月に東京都で生まれ、1989年に上京。その後、中古重機の輸出業に従事。現在は、年間30台の中古重機を輸出している。

長の名嘉幸照さん、メディア・ワン社長の仲松健雄さん、設計事務所代表の菅原律子さん、沖成電設社長の中田喜昭さん、仲里建設の仲里眞光さん（WUB関西会長）、大浜教育研究所代表の大浜多慧子さんら取材させていただきました。この場をお借りして感謝申し上げます。



重田辰弥さん

取材のために大阪、名古屋、福岡などへもたびたび足を延ばしました。お会いしたのは皆、素晴らしい人たちばかりですが、大阪のヒヨシ代表取締役会長・日吉松仁さんのことは特に強く印象に残っています。

日吉さんは1915年本部町浦崎生まれで旧姓が比嘉です。1934年大阪に出て歯科医師の下で働きます。眼病を患い、いったん帰郷。1936年再び上阪しました。「鉄工所の求人」の張り紙があったので申し込もうと思ったら『琉球人、朝鮮人を除く』と書いてあった。何くそと思った」と日吉さんは言います。保険外交員、特殊プレス作業員、旋盤工見習いなどを経て、紙巻きタバコ製造機など精密機械を製作していた鉄工所に就職。高度で複雑な技術を学びました。1943年独立し、大阪市大正区に鉄工所を創設しました。「名刺を渡してもなかなか『ひが』と読んでくれない。出身地はどこかと尋ねられ、『沖縄出身者には仕事を頼めませんか』と答えたら、逆に気に入られ仕事をもらったことがある」と笑っていました。1945年に工場を移転したのを機に「ヒヨシ製作所」と看板を掲げます。「比嘉」は「ヒヨシ」とも読めるからでした。後に「日吉」に改姓しました。終戦直後には、焼け跡の製材機械を分解し図面化して複製したこともありました。社業は順調に発展しましたが、1977年繊維不況のため会社を整理。工場敷地の一部を売却し「株式会社ヒヨシ」として再出発します。現在は長男が社長で、ステンレス製品の加工を中心に社業を営んでいます。

1983年から14年間大阪沖縄県人会連合会会長を務めており、県人のリーダーとして信望を集め、多くの人たちから慕われていました。当時の東里勝夫琉球新報大阪支社長が日吉さんを紹介してくれました。取材をしたのは2003年7月14日のことです。自宅で話を聞くうちに、つい時間を忘れてしまい、インタビューは2時間近くに及びました。話を聞き終わった後、工場の前で写真を撮影しました。私が「にっこり笑ってください」と申し上げると、穏やかな笑みを浮かべておられました。9月3日に記事が掲載されると、ご自身から感



日吉松仁さん

激した声で電話がかかってきました。「ありがと。こんなによく撮れた写真はついぞない。差し支えなければ送っていただけませんか」とおっしゃいます。フロッピーディスクに写真のデータファイルをコピーして郵送したと

ころ、1カ月後の10月10日に亡くなりました。あれほど元気だったのに…と本当にびっくりしました。東里大阪支社長を通じて、「本紙に掲載された写真を告別式で使用したい。写真を提供してほしい」との希望が伝えられました。「ご本人から電話があり、既に郵送しています。自宅に写真のフロッピーがあるはずですよ」と返答したところ、私の撮影した写真を見つけたし、遺影として使用したそうです。一期一会。人との出会いは大切にしなければならない—と痛感したものです。

石垣市出身の比屋根毅さん（1937年生まれ）も立志伝中の人です。16歳で関西に渡り洋菓子職人として修業。裸一貫から洋菓子のエーデルワイスを創業し、年商100億円を超える企業グループに育て上げま



比屋根毅さん

した。本土に出たばかりのころは「沖縄人お断り」という条件付きの求人も珍しくなく、随分差別がありました。就職の面接で「日本語は話せるか」と聞かれ、「今しゃべっているのは日本語じゃないですか」と憤慨し、食ってかかったこともあるそうです。そういう環境の中で、「何くそ、負けてたまるか」と発奮したことが、成功の原動力になっています。若手も元気な人が少なくありません。浦添市出身のさくらトレーディング社長・奥本尚哉さん（1969年生まれ）は、世界に通用するビジネスマンを目指し18歳で単身渡米しました。最初に赴いたワシントン州シアトルでは周りに日本人



奥本尚哉さん

が多いためどうしても日本語を話してしまいます。これではいけないと、メキシコ国境のテキサス州エルパソに移り住みました。周囲はメキシコ人ばかりだったので英語の習得がはかどったそうです。

現在は東京で中古重機

の輸出会社を経営。香港、シンガポール、マレーシア、ベトナムなどアジアの国々に重機を送り出しています。東京支社報道部には私を含め三人の記者が配属されていましたが、「沖縄マインド」の取材はすべて報道部長が担当しました。私は2004年4月1日付で東京支社から離任、本社編集局政経部長に異動しました。東京支社在任中に取材した県出身経営者は96人に上ります。「沖縄マインド」は、現在の近藤好沖報道部長に引き継がれ、現在も週1回の連載が続いています。この間、連載に登場した本土在住の県出身経営者と県内の企業家が集う「沖縄マインドの集い」ビジネス交流会（琉球新報社、沖縄県産業振興公社主催）を東京、沖縄と交互に開催しました。交流会はことし三月までに7回を数えており、事業提携などで実を結んだ事例もあるようです。本土でのウチナンチュの活躍は、沖縄の人々を勇気づけてくれます。WUB東京のますますの発展を切に祈っています。

【6月】22日／新橋・沖縄ツーリスト東京支店にて2005年第1回理事会開催。定例理事会を毎月第4水曜日開催に決定。

【7月】10日／下里理事のこだわりのお店「ヘルシー居酒屋 おきなわ亭」の開店をWUB東京メンバーもお祝いに。



14日／WUB東京顧問の重田氏が関東沖縄経営者協会の新会長に就任。下里理事・仲松会員が副会長に。

21日／共同事業体(WUB SHOP)を立ち上げるため市場調査



を兼ねてIT新会長の与那嶺氏はじめ知花氏・城間氏・伊江氏・角谷氏5名のWUBブラジルメンバーが来日され、新橋での懇親会にはゲストも多数で参加いただき和気

藹々と楽しい一時を過ごしました。

27日／第2回理事会(沖縄ツーリスト)。第1回例会開催概要決定。

【8月】24日／第3回理事会(沖縄ツーリスト)。第1回例会準備。



24日／東京アメリカンクラブにてロバート・仲宗根氏(WUB創設者)

を囲みWUB東京のメンバーとランチミーティング。



【9月】6日／マウイ島で行なわれたWUBインターナショナル理事会に長嶺会長参加。

28日／霞ヶ関ビル33階東海

大学交友会館にて第1回例会開催。(株)エフケイデジタル代表取締役 新里富貴子氏による講演「沖縄女性の起業 エネルギーの源」。



ゲストを含め54名の出席者は魅了されっぱなし。

【10月】26日／第4回理事会(沖縄ツーリスト)。12月例会と忘年会、WUB世界大会・ペルーの対応と参加、会費、沖縄フェスティバル広告掲載について、収益事業の提案等を協議。

【11月】22日／第5回理事会(沖縄ツーリスト)。WUB東京拡大例会・忘年会・分科会・イベントや交流会などの広報について、討議。



【12月】21日／東海大学交友会館にて「2005年度WUB東京拡大例会・忘年会」開催。30名の参加者全員の自己紹介や高・又コンビニの司会で閉会時間ギリギリまで盛り上がった。

06年【1月】18日／第6回理事会(沖縄ツーリスト)。1月30日開催の第10回WUB世界大会・ペルーについての説明。

WUB東京 フラッシュバック (05年6月~06年5月)

30日／第10回WUB世界大会・ペルーにWUB東京から長嶺会



長・大城副会長・小畑監事・小泉会員・大浜会員が参加。



【2月】22日／第7回理事会(沖縄ツーリスト)。WUB世界大会ペルーの経過報告および来期の役員選考委員会の報告。

【3月】11日／所長の勝方恵子教授[早稲田大学 琉

球・沖縄研究所]設立総会にWUB東京応援参加。会場には大田元沖縄県知事・現参議や植木元沖縄担当大臣等も駆けつけた。

24日／第8回理事会(沖縄ツーリスト)。長嶺会長による「WUB世界大会(inペルー)」の報告。ホーム



ページ内に「在沖会員短信」のコーナーを設置。早速、湧川さんより第1号投稿! につづき、「うちなー野菜園」屋良ナーベラー成長記録始まる。

【4月】26日／第9回理事会(沖縄ツーリスト)。「WUB東京総会」準備に飛び入りでヴァイオリニストの與那嶺理香さんがゲスト参加。



【5月】10日／新橋第一ホテル東京で行なわれた関東沖縄経営者協会40周年

式典にWUB東京のメンバー打ち揃い重田G応援。350名の出席者で大盛況。右上は祝辞を述べる稲嶺沖縄県知事。

21日／又吉理事コーディネート国立オリンピック記念青少年センターにて行なわれた沖縄県私大就職指導協議会「就職の翼」へWUB東京として三回目の協力参加。ロスから斎藤陽子さんも参加で話題も国際的。



23日／総会準備に向け緊急理事会(沖縄ツーリスト)。



26日／銀座「モルチェ」において「2006年度WUB東京総会」開催。ゲストを含め33名が参加。当日入会の與那嶺理香さんのヴァイオリン演奏に全員が心癒され。

WUB東京在沖会員からの近況報告

銀座に新名所「美ら海水族館」誕生!? 沖縄県物産公社 銀座わしたショップ屋外広告

WUB東京 屋良 朝男

6月21日、東京・銀座に巨大ジンベイザメが突如出現、来店者や道行く人々の目を奪った。実はこれ、沖縄県物産公社が沖縄海洋博記念公園と企画連携して、世界最大級の大水槽をデザインした壁面サインなのである。

銀座の外堀通り沿いにある「銀座わしたショップ」が入店している実業之日本社ビルの壁面に、ほぼ実物大サイズ（タテ6m×ヨコ9.5m）で登場させた。

「今にもジンベイザメが建物から飛び出しそうな迫力」がデザインコンセプト。本格的な夏を一足早く沖縄観光をPRし、10月20日までの4ヶ月間、「沖縄の夏」をアピールする。

この屋外広告は当社が沖縄県物産公社から制作委託を請け、デザイン・広告掲載申請・施工管理をWUB東京会員でもあるvproの蛸山さんの協力を得て実現にこぎつけたもの。

（蛸山さんには、距離があるぶん天候、スケジュール管理などなにかと迷惑をかけてしまった。改めて心からお詫びと感謝申し上げます。）



観光立県沖縄のシンボル「美ら海水族館」と沖縄物産情報の発信基地「銀座わしたショップ」のコラボレーションは、必ずや



相乗的経済効果をもたらすと期待すると同時に、東京と沖縄のビジネスの小さな架け橋になれたことはWUB東京会員冥利だと思う。

今や『空気と水以外に印刷できないものはない』と言われるほどプリントメディアは頂点を極めた印刷業界、印刷をまだまだ極めてない当社でもマス媒体、イベント、IT関連と仕事の分野は広い。だから柔軟な発想と確かな技術で仕事は無限大∞、と志は大きすぎるくらいあるが、なかなか沖縄県の枠から飛び出せないのが現状。

是非、WUB東京会員の皆様の仕事をヒントに仕事の枠を広げたいと片思い、熱望中。

・勤務先：光文堂印刷株式会社 本社/沖縄県南風原町 東京支店/千代田区飯田橋

デジタルソリューションのための ベストパートナー



私たちは、お客さまにとって
ベストな情報環境をご提供する

情報戦略のプロフェッショナル企業です。

業務内容：各種事務処理系アプリケーションの開発から、ハードウェアの選定・導入から運用。「WEB系ソフトウェア」「DBソフトウェア」「CGソフトウェア」など各種アプリケーションの開発。クライアント・サーバシステム（CSS）にかかわる各種ソフトの設計、開発、コンサルティングなどデジタルソリューションに関わる全ての業務を行っています。

インターネット グループウェア
提供サービス

Internet GroupWare
らくらく手帳

<http://www.rakunote.com/>

琉球王国の交易市场

おきなわレイト
Okinawa's

<http://www.okinawa1.co.jp/>



株式会社
日本アドバンストシステム

<http://www.nasbi.co.jp/>

本社 東京都品川区西五反田2-12-3 第一誠実ビル TEL:03-5759-1781 FAX:03-5759-1627
静岡事務所 名古屋事務所 大阪事務所 沖縄事務所



ねっ? 違うでしょ? これが沖縄の海。

創業40余年

迅速・確実なサービス



沖縄ツーリスト

信頼のマーク

北海道から沖縄まで……全国34店のサービスネット

東京支店 銀座案内所

TEL (03) 3509-6311

TEL (03) 3562-6455

港区新橋1-13-12

(銀座わしたショップ内)

E-mail:tyo@otsinfo.co.jp

●新入会員紹介 (2005年6月から2006年5月末日現在)

- 小泉 ケイ子(こいずみ けいこ)5月25日入会 (株)会繩軌道 代表取締役社長 E-mail: info@ainakido.com TEL.0465-47-1837(代)



JR東海道新幹線(東京～新大阪)の下で軌道保守工事会社「株式会社会繩軌道」を経営。

「正直な仕事をしよう」をモットーに、平成元年に社員20名で起業して依頼18年、社員数40名の企業に成長することができました。この40名の人的資産が私の全てといっても過言ではありません。私自身が伊是名島出身で、沖縄から内地に就職しなければならなかったことから、沖縄県の完全失業率をいやが上にも意識せざる得ない環境にあり、少しでも沖縄県のお役に立つことを願って微力ではありますが雇用を進めてまいりました。その甲斐あってか、現在では全社員の8割が沖縄県出身者であり、その約半数が会社寮で寝食を共にするという、家庭的な雰囲気の中で、毎日元気に仕事に従事しています。長引く不況と闘いながらの企業規模拡大は、困難な道程ではありましたが、経営環境と条件に恵まれ、社会環境にも翻弄されることなく、年商3億4千万円の会社に成長させることができました。今後は、一層の経営基盤強化を図り、社員と一丸となって顧客満足度の高い企業経営を目指していきたいと考えています。

- 大浜 多恵子(おおはま たえこ)5月25日入会 大浜教育研究所 代表
企業の人材教育(採用、育成、登用)に関する仕事をしています。最近「部下育成」や「コーチング」のスキルアップのニーズが、増えました。大卒、院卒、相手の仕事なので気が抜けません。価値ある情報、正しい情報の提供を心がけています。WUB世界大会の開催に伴って、開催国を旅行し、世界のウチナンチュと会うことを楽しみにしています。



- 中田 喜昭(なかだ きしょう)6月1日入会 沖成電設(株) 代表取締役
- 亀谷 長健(かめや ちょうけん)7月12日 行政書士事務所経営 TEL.042-559-3723 携帯090-1537-3807 E-mail: cho_kameming@muj.biglobe.ne.jp



1950年沖縄県首里生まれ。5歳の時、東京へ移住、法政大学卒業。1983年上海復旦大学留学、恩師呉傑先生に中国・琉球関係史を学ぶ。

- 知花 清全(ちばな せいぜん)8月10日入会 (有)友善電設 顧問、南米料理 ラ・エスタンシア経営



- 知花 正治(ちばな まさはる)8月10日入会 (有)友善電設 代表取締役



- 山川 欣伸(やまかわ よしのぶ)8月10日入会 (有)山川電設 代表取締役



- 仲村 定雄(なかむら さだお)8月10日入会 スナック ニューカサプランカ 経営



- 玉城 晃(たましろ あきら)8月18日入会 (有)玉城電気工事 代表取締役



情報発信
掲示板

- 前川 昌道(まえかわ まさみち)8月19日入会 E-mail: wns-maekawa@mb.newweb.ne.jp



IT関係を中心とするコンサルティングとコーディネートの事業を営んでおります。データ保護環境を確立するための安価でセキュアな最先端回線環境とIP-TV電話の提供及びウチナンチュ社長開発の最先端の手入力デジタルPEN事業推進に取り組んでいます。ウチナンチュの事業支援をしたいと思っております。よろしくお申し上げます。

福井 千鶴(ふくい ちず)8月19日入会 日本大学国際関係学部 助教授 E-mail: chizu@mb.newweb.ne.jp



大学にてラテンアメリカ社会、ラテンアメリカ論を専門に教えております。ペルー・リマ市とボリビア・サンタクルス市およびオキナワ移住地のウチナンチュや日系人を訪問し交流しています。ラテンアメリカの日系人、ウチナンチュとのコミュニティづくりを進めたいと思っております。福井ゼミ生が中心となりラテンアメリカ交流会を持ちラテンアメリカの交流を進めています。皆さんの参加をお願いします。

- 安室 朝吉(あむろ ちょうきち)8月30日入会 (有)ウチナーサン 代表取締役



- 佐和田 武夫(さわだ たけお)9月29日入会 (有)トップサービス 代表取締役(空調、メンテナンス、ビル管理) 〒274-0074 千葉県船橋市滝台2-4-13 TEL.047-461-2491

- 大八木 満(おおやぎ みつる)9月5日入会 (株)大源 代表 TEL.0466-31-0852 E-mail: mi-ohyagi@daigen.ne.jp
- 2004年北谷町に支店を開設、健康食品のノニジュース販売。2005年3月那覇市内に農業生産法人(株)沖縄ファームを設立。沖縄の自然と健康をテーマとして、沖縄のハチミツを生産販売しています。大好きな沖縄の発展の一助になればと思っています。

■WUB東京会員からのお知らせ

第12回美崎 洋画展が下記スケジュールにて開催されます。

期間：7月17日(月)～7月23日(日)

PM12:00～PM7:00(最終日PM4:00まで)

場所：月光荘 画室II 電話 03-3573-5605

中央区銀座8-7-18 美陶ビル1階

新橋駅銀座口より徒歩5分(銀座国際ホテル通り)

TAIYO HOME PAGE <http://www.artra.jp>

■編集後記

初めて「えーく」を担当いたしました。構成と進行管理がうまくやれたのかどうか多少悔いが残ります。制作に携わる方のご苦心やご苦労など、まだまだ知り得ない場面がありますが、次回の課題として「会員のための充実した紙面作り」を心掛けたいと思います。もっと掘り下げた話題の提供と、自ら取材して会員方々と直に向き合った記事の掲載を行いたいと感じています。そのためには会員相互のコミュニケーションの場を多く持って、オリオンビールで、ありっ！乾杯！する機会が必要ですね。夏、到来です。(R・T)

会員の皆様からの近況報告やイベントや商品等の告知、ご意見等をお待ちいたしております。どしどしお寄せください。